

瀬魚一本釣漁業試験

永野・岩倉・東郷

趣 旨

現在群島内に於ける漁業では鰹一本釣の外見るべきものがなく、小数の一本釣漁業も群島特有の板付（イタツケ）船を以てする小規模のものが多いため近海に比較的広範な好漁場を控えているにもかかわらず出漁範囲は自ら沿岸に限定されているので、前年度に引続き該漁業試験を実施し、技術の向上漁場の開拓を目的として漁船の中型化、沖合進出を促さんとするものである。

試験経過

航海回数	1	2	3	4	5
期 間	31.5.29~6.1	9.18~9.24	10.23~11.14	12.2~12.2~12.9	12.19~12.26
乗 組 員	調査員 岩倉 船 員 8 名	調査員 永野・岩倉 船 員 8 名 古仁屋高校実習生 5名	調査員 東郷・船員7名 古高実習生 5名	調査員 岩倉・東郷 船 員 7名	調査員 岩倉 船 員 7 名
漁 具	前年度使用の瀬魚一本釣具				
餌 料	サンマ イカ サバ 3メ 20メ 16メ	イカ 小ガツオ 20メ 25メ	ムロ 小ガツオ 32メ 24メ	ムロ 28メ800	イカ メチカ 21メ 20メ
砕 氷	6 屯	4 屯	5 屯	2.5屯	3 屯
漁 獲 量	ちびぎ他 13メ450	ちびぎ他 78メ700	ほた外 85メ800	ほた外 45メ900	ほた外 18メ800
使 用 船	試験船かもめ丸 (19.59屯 50HP) 103型魚探機 25W無線電信機装備				

航海 次数	月日	月令	時刻	気 象			海 象				漁 獲	漁場	
				天候	気温	気圧	風向力	水温	波浪	うねり			潮 流
1	5.29	18.6	08-00	bc	26.8	1013	S. 2	24.6	1	1	N后ENE	ほた 7尾 赤まつ 5尾 たい8尾	①
	30	19.6	10-00	bc	24.5	1011	SW. 3	24.6	2	2	NNE	〃 9〃 〃 8〃 〃 9〃	②③
	31	20.6	12-00	O	27.0	1013	SE 2	25.1	2	2	S后NNE	〃 5〃 〃 4〃 〃 2〃	④⑤
	6.	21.6	10-45	bc	27.5	1015	S 4	26.2	3	2	ENE	〃 〃 〃 2〃 〃 3〃	⑥⑦
2	9月20日	15.3	0900	O	28.0	1014	S.2	27.7	1	2	NE緩	ちびき52尾白ほた2尾きん魚4尾銀まつ1尾	⑧⑨
	21	16.3	1030	bc	27.4	1013	SSE.3	27.9	2	3	ENEや、速	ちびき19〃 ちだい2〃れんこだい3〃きん魚1〃	⑨⑩
	22	17.3	1030	bc	27.2	1013	S.2	27.4	1	2	ENE速	ちびき4〃 ねばり1〃 あら1〃 きん魚3〃	⑩⑪
	23	18.3	1000	O	26.9	1014	ENE.3	27.8	2	2	Eや、速	白まつ71〃 くちみ1〃 ほた 4〃	⑫⑬
	24	25.9	1200	O	23.5	1017	NNW.5	24.7	4	4	W	な し	⑬
3	31.8	5.4	16-00	bc	21.0	1021	E.5	25.5	4	3	S E	ほた73尾白まつ青まつ。2尾そーじ2尾たば1尾	⑭
	10	7.4	19-30	b	23.0	1017	SE.3	25.0	2	1	〃	〃 84〃 〃 2尾 ちだい 3〃	〃
	11	8.4	19-00	c	20.0	1018	NNE.4	25.0	3	2	ESE	〃 92〃 〃 4〃	〃
	13	10.4	14-00	b	19.0	1021	NNE.3	25.8	2	2	E	〃 43〃 青まつ 2尾	〃
4	12.2	29.4	0900	O	19.2	1026	NNE3	23.7	2	2	NNE緩	な し	⑮⑯⑰
	3	0.8	0940	O	18.1	1024	NE3	22.7	2	2	殆んど停止	ホタ8尾 チビキ4尾 イナゴ2尾 トカキン(イソマグロ)1〃	⑱
	4	1.8	0930	r	18.5	1014	WSW4	23.6	3	2	S緩	チビキ 9尾 イナゴ 7尾	⑲⑳
	6	3.8	1030	O	20.1	1021	ESE3	22.4	2	3	ENE緩	ホタ 65尾	㉑㉒
	12.7	4.8	1200	bc	19.2	1020	NW1	22.5	1	2	E	ホタ 71尾 チビキ 4尾	㉒㉓
5	20	17.8	1040	O	10.0	-	WSW3	21.8	2	2	E 速	ホタ 56〃 チビキ 2尾 アラ1尾	㉔㉕
	21	18.8	1000	O	10.0	-	NNW4	21.3	3	2	NNW	チビキ 4〃	㉖㉗
	25	22.8	1130	r	8.0	-	NW.5	20.3	4	3	E 速	な し	㉘

後 記

オ 一 次 航 海

今航海は鹿児島で餌料及碎氷を積込んで以来時化続きのため出港がおくれ古仁屋廻港時には既に2週間近くを経過しその間餌料の鮮度は著しく低下し思う様に操業出来なかつた。本航海は天候に恵まれたにもかゝらず上記餌不良のためか漁は芳しくなかつた。

一般に当海域にはタイ（主にチダイ、キダイ）が水深200~250mでよく見られた。チダイはやゝ大型でキダイは200匁内外の小型のものであつた。又ホタも200m内外で釣獲された。

漁場は比較的広範で海底形状も割に平坦で荒瀬は少なく潮流にさえ恵まれれば可成りの好漁をするものと考えられる。

何れにしても徳之島~与路島中間漁場は好漁場と思はれ魚群の季節的な動きが或る程度解明出来れば期待がもてるものと考えられる。又与路島へタ寄りではホタが多いものと考えられこれも同様に季節的な動きについて好漁期の調査が望ましい。

オ 二 次 航 海

一本釣具に餌袋使用について。

本航海は一本釣漁具に餌袋（かぶし入）を附し試験を実施した。之は内地で好結果を挙げている鯛のフカセ釣を参考として本漁業に採り入れたものである。袋は長さ6寸5分袋口の経1寸3分。布地は赤色の木綿を用いた。尚袋口には20番線内外の針金を入れ円形に保つ様にする。結付の方法は図の如く円の片側に麻糸を通し一寸位の長さになる様にしばるだけでよい。しばりつけ箇所はサルカンの下側の環か環の下麻糸がよい様であるこの袋にミンチにかけたカブシ（包丁でたゝいたのも可）を9分目位入れ漁具が海底に達してから3~4尺速やかに手操り直ちに伸すこの操作を1.2回繰返すと適量のカブシが放出される。

本航海ではカブシ用の特別に餌料（キビナゴ、イワシその他）が入手出来ず、かけ餌に使用したカツオの肉をミンチにかけて用いたので不足勝で全漁具に使用出来なかつた。この方法の効果については試験期間も短く今後の調査に俟たねばならないが一般に餌付はよかつた様である。又水深が深い場合は重量が相当大となり釣り手の体力の消耗が考えられ或は又漁事盛んな時、もつれなどが考慮され能率の低下を来すおそれなしとせずむしろ之は餌付悪い時に大いに利用すべきであらう

サンドン岩Wの⑩では餌付もよく水深も90m位（30尋内外）であり従つて漁具の投入引上げが頻繁であつたため能率上使用しなかつた。

カブシ袋取付位置であるが潮流の停止緩速に応じてI図又はII図の何れがよいか（餌カブシ）が釣の方え万遍なく行き渡る様或は海底形状底質により漁具の経絡も考えられ之等の見地から袋の取付位置錘の位置はI. II図の何れにするか工夫を要するものと思はれる。

